

自動認識システム大賞「日本工業新聞社 社長賞」

テーマ：映像資産保管システム

技術分野：二次元コード

申請会社：金剛株式会社、株式会社 東研

ユーザ会社：NHK アーカイブス

システム概要

NHK アーカイブスには、50年間分の番組が保存されており、保存されている量は、VTR換算で約59万本。内訳は、22万9,000本の番組や88万項目のニュース映像となっており、制作現場で番組制作中に映像が必要になったとき、制作者（発注者）は自分のPC上から必要な映像を検索し、必要部分を指定する。

するとその要求情報が川口にある総合DBに送信され、担当者が保管庫から該当テープを取り出す仕組み。

ただし、約59万本の中から1本を探し出さなくてはならないために、「アシスト機能付き移動棚」と「二次元SS無線ハンディターミナル」を利用し確実な映像資産保管システムを構築した。

特徴

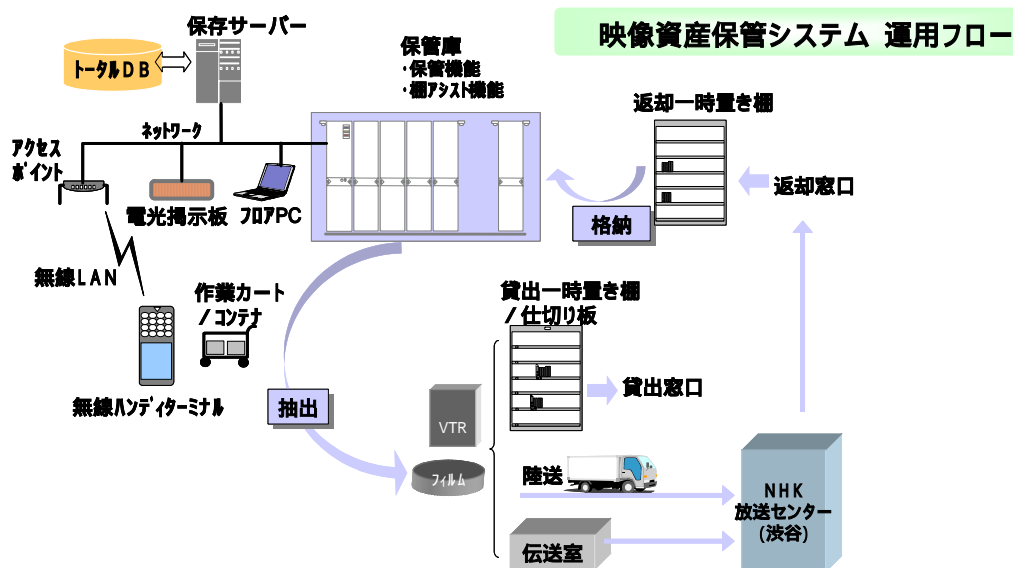
ハンディターミナルは、無線LANでデータベースサーバーと繋がっており、保管場所を地図形式で表示するため職員は短時間で間違いなく該当テープを探し出すことができる。

ハンディターミナルの指示に従い、移動棚が自動開閉し該当のローケーションに表示灯が点灯し、入出庫作業の効率を最大限にアシストする。

該当テープを再生機で再生すると、自動的にMPEG2形式（ハイビジョン映像と同等）でエンコードされ制作者（発注者）がいる渋谷の放送センターに送信される。

貸し出し準備が完了すると、制作者（発注者）に自動的にメールで案内が送信される。

全て（約59万本）のVTRには、放送年月日やVTRの種類・制作部局などのデータが組み込まれた二次元シンボル（QRコード）が貼られている。



NHK アーカイブスとは、

NHK が放送に使用した映像、音声ソフトを一元的に管理し、多角的に展開する拠点として整備。最新のデジタル技術を使った機能的なシステムを導入し、かけがえのない映像資産の継承を図る。



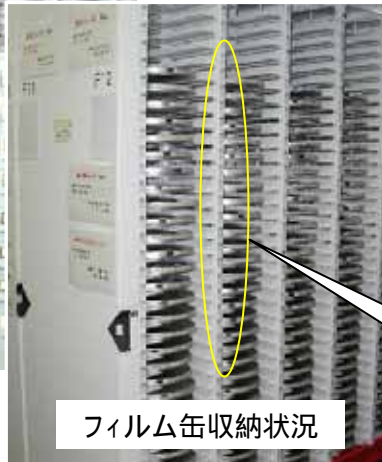
3つのキーワード

- 伝える** 貴重な映像資産を次の世代に
- 活かす** 放送を中心に多様な形で展開
- 公開する** 保存ソフトの公開と社会への還元



フィルム保管庫

- ・「ハンディターミナル」導入で、ロボットの全自動にするよりも一桁コストが安く構築できた。
- ・ハンディの指示により、該当の棚が自動開閉する。



フィルム缶収納状況

棚板 QR シール



棚板 QR シール

↑ 階ブロック 列 連 段
4 A 0 1 0 2 0 6

「ハンディターミナル」画面に棚の場所や、何段目に置かれているかが地図イメージとして表示され、誰でも作業が可能となっている。